

topics

皆さんのリンゴを守ります

01

9月23日、弘前警察署にてりんご盗難パトロール出動式が行われた。

式には小田桐署長や防犯パトロール関係者、市町村長、農協関係者などが出席。今後本格化するリンゴ収穫作業時の盗難防止を食い止めようと意気込んでいた。

小田桐署長は「これからふじの収穫作業が本格化します。生産者の方々の日頃の大変な作業が台無しとならないように、各地域の根ざした、きめ細やかなパトロールをお願いしたいと思います。」と関係者一同を激励していた。



パトロール隊を激励する小田桐署長

topics

安心した事業を行う為に

02

J A 共済連青森では9月24日、新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とし、令和2年度の地域・農業活性化事業を活用のため、発熱測定ハンディカメラを寄贈した。当JAとしても様々なイベントが規模縮小や中止になってきているが、この機器を使いより多くのイベントが安全に開催できるのではないかと期待される。



ハンディカメラで簡単検温

topics

人との触れ合いに喜びを感じた

03

8月24日、J A 共済連青森はJA事業総合体験研修を行った。この研修は、農家の人達はどのような仕事を行っているのか、JAの直売所ではどのような業務内容を行っているのか知る為の研修である。

当日は当JA管内のりんご園にて葉取研修や、直売所「林檎の森」にて荷作り作業等を行った。

研修生らは、「日々の業務では、あまり生産者やお客様と触れ合う事が無い事から、新鮮な気持ちで二日間研修することが出来た。」と話していた。



園主から葉取利作業を教わる研修生

topics

令和2年産米全量が一等米

04

10月6日、2年産青天の霹靂の初検査が行われ、JA組合長をはじめ、ライスロマンクラブ組合長や全農米穀部等関係者12名が検査を見守った。

検査は農業振興課三上拓哉指導員が行い、整粒や水分量、被書粒、着色などを見定めた。

今年は品質も良く、収量は確実な数字はこれから出るが、関係者が多い予想であると言っている。

佐藤喜久男ライスロマンクラブ組合長は「今年は雨が多く生育が心配されたが、無事一等米となり安心した。」と喜びを語った。



品位鑑定を行う三上検査員

空飛ぶ農業応援団が
人手不足解消

05



現在コロナ禍における人の移動制限の自粛により様々な業界に影響が出ている。

これにより、外国人労働者が日本へ来られない影響は農業にも及んでいる、というケースを目にしたのは日本航空株式会社の運航乗務員である。運航乗務員もコロナ禍により便数が半分以上減ったため、待機する運行乗務員と人手不足の農家とマッチングしようと運行乗務員が有志を集め、農作業応援活動として10月1日～5日まで管内二カ所において作業を行った。

今回の日程にはJALから5名の有志が参加した。コロナウイルス感染防止対策の為、就業前に検温を行い、園地で使用する手洗いや消毒液、園地で使用する手洗い用せっけんと水を用意して園地へ向かった。

作業は反射シートを剥く作業や葉摘み作業、収穫作業を行った。

有志はりんごに関する作業全てが初めてであり、「りんごは一番人手が必要な作物であるという事を聞いたことがあるが、作業してみると身をもって感じる事が出来た。」と話した。今回有志を受け入れた園主は、「葉摘み作業や、収穫作業は特に人手を要する作業である為、このように来てくれて大変助かった。皆さんがパイロットであることを聞き、普段接する機会のない業種の方と話をすることが出来て楽しい毎日を過ごせた。また、来てもらえるのであれば是非お願いしたい。」と感謝していた。

この取組の発起者であるJALの小山浩司さんは、「初めての作業でしたが、手伝いに来た以上一杯仕事をしたいと思い、5日間全力で取り組みました。園主の方にも喜んでもらえて良かったです。来年度以降もこの取組を継続できるようにしたいと思っています。」また、西田主席機長は、「地域の小学校などを対象に航空教室などの空育といった事もしたいと考えているので、これからも密な連携を取っていききたいと思います。」と熱い思いを語っていた。



高所作業も慣れた手つきで作業



初めて食べた未熟なりんごも美味しいと試食していた



丹精込めて育った収穫作業はやりがいを感じる